

千葉・西根遺跡

- 1 所在地 千葉県印西市戸神字棚田
- 2 調査期間 一九九九年(平11) 七月～二〇〇〇年一〇月
- 3 発掘機関 (財)千葉県文化財センター
- 4 調査担当者 榑原弘二・沖松信隆ほか
- 5 遺跡の種類 遺物包蔵地・自然流路
- 6 遺跡の年代 縄文時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(佐倉)

西根遺跡は、印旛沼に注ぐ神崎川の支流である戸神川に開析された標高四m前後の谷津に立地する。区画整理事業に関わる県道建設に伴い、一九九九年から二〇〇〇年にかけて三次にわたって調査を実施した。

縄文時代後期から近世にかけての複合遺跡で、特に縄文時代後期を主体としている。検出された遺構は、縄文時代後期から近世に至る流路と古墳時代前期の堰

である。奈良・平安時代の流路から木製形代(人形・馬形)や人名の記載された墨書土器が出土している。

木簡は、一九九九年の確認調査時にテストピットから一点出土したもので、明確な遺構に伴うものではない。

8 木簡の釈文・内容

(1)

〔 〇 〕

(118)×32×8 019

下端と側面の一部が欠損している。表裏とも平坦で、上部が厚く、下部が極端に薄い作りとなっており、薄い部分の厚さは2mm程度しかない。頭部近くに小孔が一カ所穿たれている。樹種はヒノキである。墨書は判読することができなかった。木簡の年代は、遺構に伴わないため明確ではないが、奈良時代から中世にかけての所産であろう。

9 関係文献

(財)千葉県文化財センター『印西市西根遺跡』(二〇〇五年)



(栗田則久)